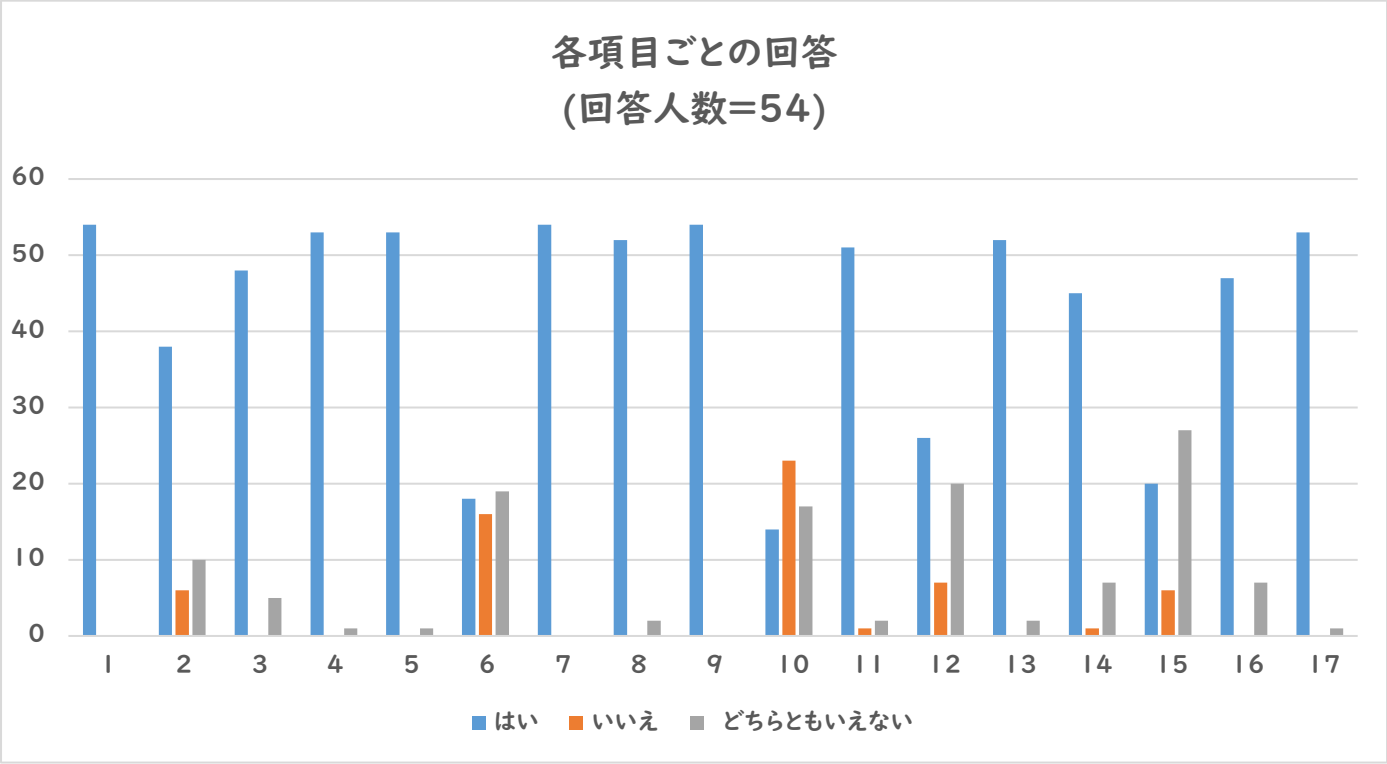
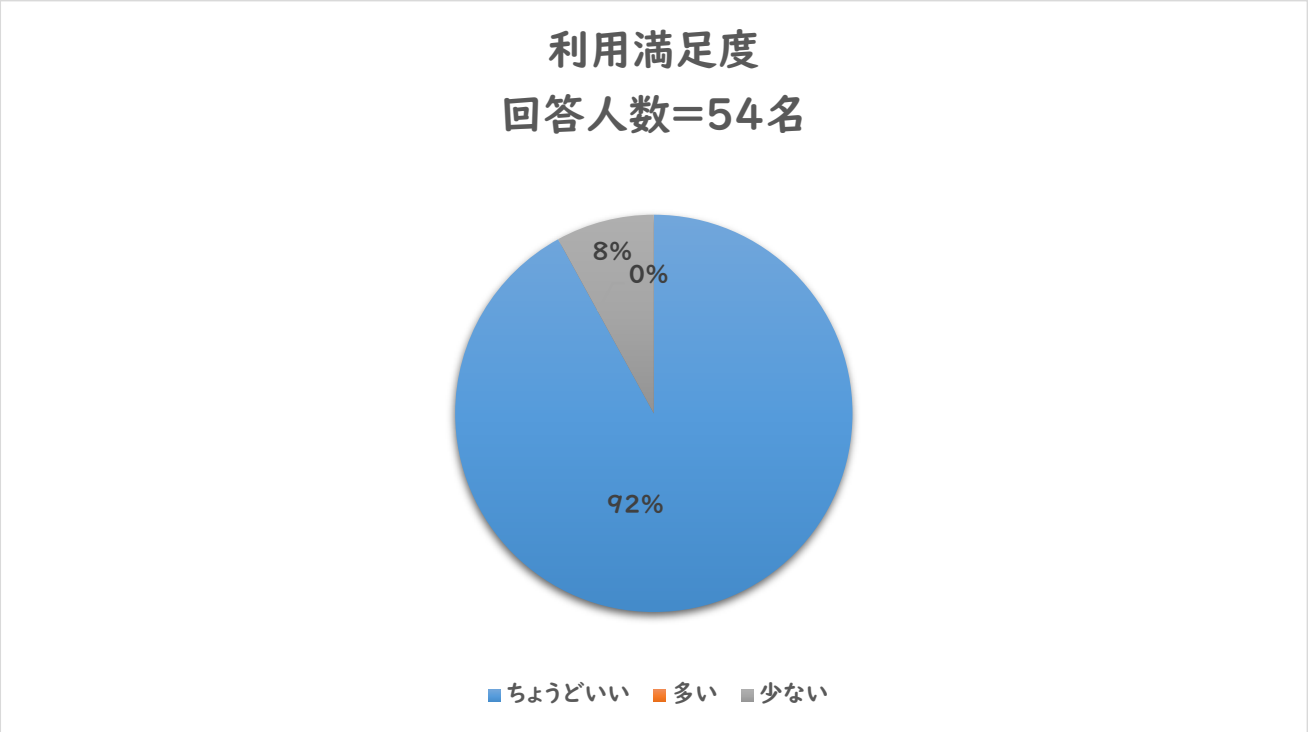
令和６年度　保護者アンケート結果　　子どもサポートセンター　すまいるキッズ



1．子どもの活動スペースやプライバシーに配慮した部屋が十分に確保されているか
2．事業所の設備等は、スロープの設置などバリアフリー化の配慮がされているか
3．職員の専門性や人数は適切であるか
4．ニーズや課題に沿った支援計画が提案されているか
5．子どもに合った活動が工夫されているか
6．同年代の子どもと交流する活動などが出来ているか
7．支援内容、利用者負担等について丁寧な説明がされたか
8．子どもの発達状況や課題について話を聞けているか
9．育児や子どもに沿った対応の助言等を得られる時間があるか
１０．他の保護者との交流が出来る機会が持たれているか
１１．相談したことなどについて体制を整備するとともに、迅速かつ適切に対応されているか
１２．定期的に、関連する講演会などの情報や業務に関する自己評価結果を発信しているか
１３．個人情報に十分な注意が払われているか
１４．緊急対応、防犯、感染症対応マニュアルが説明されているか
１５．非常災害の発生に備え、定期的に必要な訓練が行われているか
１６．子どもは通所を楽しみにしているか
１７．事業所スタッフの支援、対応に満足しているか

療育回数について



★自由記載欄★

職員の対応・利用の感想について

- いつも大変お世話になっております。子どもが楽しみにしている事が嬉しいです。ありがとうございます。
- 通園している幼稚園に訪問して相談にのってもらって助かっています。
- いつも子どもに合った内容をしてくださるので、参考になります。家で声かけを心がけようと思っています。ありがとうございます。
- 楽しみに子どもは通えていると思います。子どもへの声のかけ方等、勉強になっています。スタッフの先生方へはお話しやすいです。
- いつもありがとうございます。相談にのっていただけてまた頑張ろうと思えます。
- 通所できる回数が少ないため、早めに通所日を教えてくれるので助かっています。
- いつも相談にきちんとのっていただき、安心して通所しています。
- いつもありがとうございます。
- 先生が優しくていつも聞きやすいです(話しやすいです)。
- いつも丁寧に対応してくださり本当にありがとうございます。

回数・そのほかについて

- 回数を増やせるのなら増やしたい。
- 送迎バスがあれば利用したいです。

回答ありがとうございました。
頂いた感想・要望については、職員間で共有・検討して皆様にお返しできるよう今後とも頑張ってまいりますので、よろしくお願いいたします。

令和７年３月

すまいるキッズ職員一同

【保護者アンケートまとめ】

アンケート用紙回収にて実施
期間：約１か月（令和７年１月 20 日～令和７年２月 21 日）

1.職員の対応、療育内容・・・全般的に好意的なご意見をいただいた。
専門性や療育内容については、各個人に任されているところがあるが今後も各々で研修参加など研鑽を続ける。また、職員間でケース検討や情報共有を行い、親子にとって有意義な支援を提供していけるよう、努力を続けたい。保護者の理解を深める事がお子さんの変化に重要であると感じており、これからも保護者支援に力を入れていきたい。

2.回数・頻度について・・・92%の方から利用回数について満足していると回答いただいた。今後もお子さんの状況に合わせて必要と考える回数を入れられるよう努めていく。

3.所属先との連携について・・・当事業所には、「保育所等訪問支援事業」を充実して実施する体制が取れていないことから、所属先との連携の仕方については、スタッフ間で常に検討してきた課題である。所属先の先生からの電話でのご相談、関係機関連携加算を使った、所属先へ出向いて直接先生方の話を聞きながら対応を検討する方法、など実施してきたが、より有効なやり方を模索している。
所属先との連携はお子さんにとって大事なことであり、今後、すまいるキッズのやり方を確立し、所属先にも分かりやすくお伝えしながらスムーズな連携をはかっていけるように努めたい。

4.子ども同士の交流、親同士の交流について・・・個別療育主体のため、親同士の交流を持つことが中々難しい現状がある。子ども同士の交流については年長児を対象に数人のグループ療育行い同年齢の友だちとの関わりを経験してもらった。今後も個別療育の延長として今後もペア療育など実施していく。
保護者の子ども理解を深めることを目的に、保護者が聞きたい「子どもの発達について」や「就学について」などの情報提供をする機会を今年度希望者には個別で実施したが、この機会を広げ、保護者同士の交流の場などを持てる形も検討したい。

令和７年３月
すまいるキッズ

職員自己評価内容

〇環境・体制整備について

- 部屋の広さや構造を踏まえ、できる限り最大限の療育を行うよう努力している。
- 使用した玩具や机などの毎日の消毒、部屋の換気を随時・オゾン除菌を療育終了後実施している

〇業務改善

- 業務改善を図るための PDCA サイクルへの参画・・・関係スタッフ間ではその都度話し合いをおこない、業務改善に努めている。
- 日頃より面談などを通して保護者の声をその都度聞きながら、ニーズとお子さんの発達状況に応じた取り組みを行うことを心掛けている。
- 研修への参加・・・個人の裁量によるところが大きいのが現状である。職場内での研修・事例検討などの時間を調整していきたい。今後の展望として、職種ごとに外部講師を呼び、同職種で同じ研修を受けるような機会があると、法人全体のスキルアップ、連携につながるのではないかと考える。

〇適切な支援の体制・プログラムの実施・評価について

- 児童発達支援管理責任者に加え、各職種職員が自身の専門の視点から評価・アセスメントを実施している。
- 各職種の裁量で、発達検査、適応尺度などエビデンスがあるものを実施し、アセスメントを行っている。アセスメントの全てを個別支援計画に反映できていないところもあるが、カンファレンスを通して、支援目標を共有し、共通認識のもと支援を行うことに努めている。
- 個別療育のため、プログラムの立案はそれぞれ行っているが、担当間でお子さんの情報をその都度共有しながら支援に努めている。

〇保護者支援

- 保護者への説明・・・新規利用の方にはアセスメント後、児童発達支援計画を提示しながら説明を実施。
- 具体的な家族支援プログラム(ペアレント・トレーニングなど)は導入していない。家族の理解がお子さんの成長につながるため、お子さんの保護者の受け取りや困りの状態などに応じて、療育と並行して保護者面談を設定するようにしている。保護者との間で十分共有できていない面もあるため、共有していく方法を検討している。
- 個別療育中心のため、親同士の関わりの場を設定することができていない。そのため、保護者の聞きたいこと・知りたいことを主に、支援プログラムを検討し、親同士の交流の場に出来ないかと検討中。
- 事業所から保護者への発信に加え、保護者の受け止め具合を確認しお子さんへ自信をもって対応していってもらえるようなシステムを作っていこうと検討中である。

〇関係機関との連携について

- 所属先との連携・・・保育所等訪問支援事業がないため、直接所属先へ出向き支援や連携をすることが難しい面がある。が、電話での連携、関係機関連携を使いながらお子さんが充実した集団生活を送れるよう、所属先との連携に努めている。よりよい方法も検討中。
- 他事業所との連携・・・併用されている方もいるため、それぞれの事業所と必要に応じて担当者会議を通して連携をはかっている。
- 子ども支援部会へは、出来る限り参加し、事業所内で協議内容の共有を図っている。

〇非常時の対応について

- 各マニュアルの作成はしており、職員間では周知している。
- 少人数による療育において、避難経路、避難場所の確認、安全確認等を実施している。避難訓練については、年２回、職員全員で机上訓練を実施したが、本格的な避難訓練が実施出来なかったため、来年度以降は実施していく。
- 虐待防止への意識・・・研修に参加し、虐待防止の意識をさらに高めていく。

令和７年３月
すまいるキッズ